

MT4track 追加機能 「MT4track_Indicator」 ユーザガイド

FXSP シリーズ

<http://www.fxspseries.com/>

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約書は、FXSP series ソフトウェア製品と関連ドキュメント(以下まとめて“本ソフトウェア”といいます)に関して、本ソフトウェアのご購入者(以下“お客様”といいます)と本ソフトウェアの開発者(以下“著者”といいます)との間に締結される法的な契約書です。

本ソフトウェアの使用をもって、本「ソフトウェア使用許諾契約書」をご承諾いただき、ソフトウェアの使用許諾契約が成立したものとさせていただきます。

1. 本ソフトウェアの使用許諾

お客様は本契約への同意を前提に本ソフトウェアを使用することができます。

2. 著作権

本ソフトウェアは著作権法により保護されています。著作権は、著者に帰属します。また、本ソフトウェアに含まれている一部のコンポーネントは、その供給者に帰属しているものがあります。

3. 禁止事項

(1)お客様は、本ソフトウェアを著者の許可なく、一部、または全部を印刷物、ビデオ、電子ファイル、メール、メールマガジン、ホームページ等あらゆる手段による複製、転載、転売(オークションを含む)等を行うことを禁止します。

(2)本ソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルすることを禁止します。

(3)上記の禁止事項を違反した場合、違約金として著者に一律 500 万円を支払う事とします。

次頁へ続く

4. 免責

(1) いかなる場合においても、著者は本ソフトウェアに係わることから生ずるいかなる損害に関して、一切責任を負わないものとします。例え、著者がその可能性について知らされていた場合も同様です。

(2) お客様は、理由の如何を問わず、著者に対し補償金その他いかなる名目での支払いも請求することはできないものとします。

(3) 著者は独自の判断に基づき、本ソフトウェアの仕様又は内容の変更、修正、配布方法等の変更及び対価の設定をすることができます。

(4) 著者は本ソフトウェアの基本動作の不具合への対応は順次行いますが、環境等の諸事情により迅速な対応がとれない場合もあります。

(5) 商品の性質上、ご購入後の返品及び交換はできません。

5. 本契約の終了

お客様が上記に記載された本契約の定め的一条項にでも違反した場合には、本契約は自動的に終了します。終了した場合には、お客様は本ソフトウェアおよび本ソフトウェアに関するドキュメントならびにその一切の複製を破棄しなければなりません。

6. 管轄裁判所

本契約に関連して法律上の紛争が生じた場合は、仙台地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所といたします。

目次

1.	はじめに	2
	MT4track_Indicator について	2
2.	動作について	2
	追跡可能なインジケータの条件について.....	2
	注意事項	2
	チャート左上に表示されるコメントについて.....	3
3.	パラメータについて.....	4
	MT4track_Indicator のパラメータ	4
	シグナルバッファ設定について.....	7
	インジケータパラメータ設定について.....	8
4.	設定例	10
	TQ チャートの設定例	10
5.	FAQ (MT4track_Indicator 編)	12
6.	最後に	14

ユーザガイド変更履歴

バージョン	発行日	修正内容
Ver1. 00	2009/05/15	
Ver1. 01	2009/06/12	<ul style="list-style-type: none">・ ユーザガイド変更履歴を追加・ FAQ の修正・追加・ MT4track_Indicator のパラメータ<ul style="list-style-type: none">「BuyCloseBufferNo」を追加「SellCloseBufferNo」を追加・ インジケータパラメータ設定についてに「数値形式に変換されたパラメータ一覧を確認する」を追加
Ver1. 02	2010/01/01	<ul style="list-style-type: none">・ ユーザガイドを印刷できるように変更・ ユーザガイド変更履歴の記載場所を変更・ 追跡可能なインジケータの条件についてに④を追加・ FAQ を 3 件追加
Ver1. 03	2010/02/01	<ul style="list-style-type: none">・ 設定例を追加・ FAQ を 1 件追加
Ver1. 04	2010/11/01	<ul style="list-style-type: none">・ 「MT4track_Indicator のパラメータ」にその他設定の説明を追加

1. はじめに

MT4track_Indicatorについて

MT4track_Indicator は、MT4track にて MetaTrader4 インジケータのシグナルを基に、売買を行えるようにする拡張機能です。追跡元にセットする **MT4track.ex4** の代わりに、**MT4track_Indicator.ex4** をチャートにセットし稼働することで、インジケータのサインを基に売買を行います。

2. 動作について

稼働方法については通常の MT4track と同様になりますので、このガイドでは一部説明を省略しております。MT4track のユーザガイドをご確認頂いた後に、このユーザガイドをご確認ください。

追跡可能なインジケータの条件について

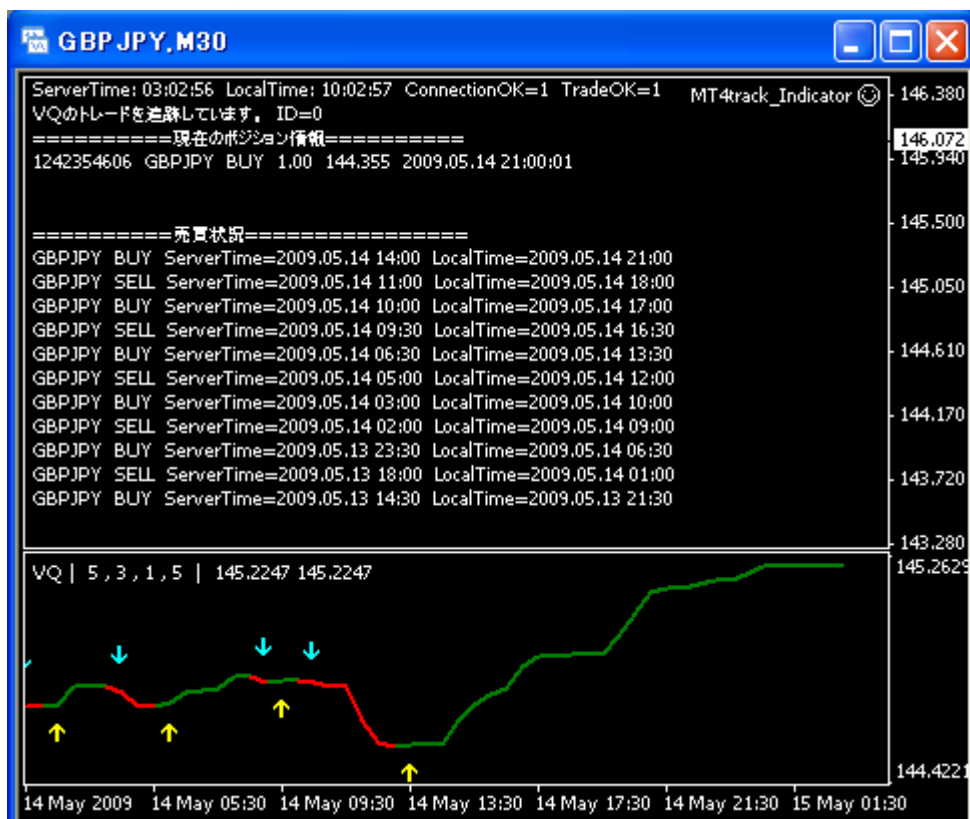
現在の条件は下記となります。この条件に当てはまらないインジケータについては、ご要望を頂ければ対応を検討させていただきます。

- ①ドテンであれば「買い」「売り」が交互に矢印等で表示されるインジケータであること。
- ②ドテン以外の場合は、「買い」「売り」「決済」が矢印等で表示され、それぞれが異なるサイン表示であること。（買い：上矢印 売り：下矢印 決済：×印 等）
- ③同一方向へ複数のサインが発生しないこと。つまり、最大で1ポジションとなること。
- ④インジケータのパラメータ指定画面の「色の設定」タブにてサインの色を変更できること。

注意事項

MT4track_Indicator にて追跡売買中は、MT4track_Indicator を組み込んだチャートの時間軸の変更は行わないでください。時間軸を変更すると、変更された時間軸のシグナルが再読み込みされ、新たなシグナルが追跡先へ送信されます。

チャート左上に表示されるコメントについて



基本的にはMT4trackと同じ表示となります。

2行目先頭にはMT4trackとは異なり、インジケータ名称が表示されます。

現在のポジション情報には、現在発生中のインジケータのサイン情報が表示されますが、1つ目の項目が注文番号ではなく、システム内部で生成した一意の値となります。追跡先で、追跡元注文番号として表示される番号はこの番号になります。

売買状況には、パラメータ「CheckBar」に設定した過去の足分の売買シグナル発生状況と時刻が表示されます。ServerTimeにはブローカーのサーバ時間、LocalTimeはお使いのPCの時間が表示されます。ここに何も表示されない場合にはインジケータ名称やバッファのパラメータ設定が間違っている可能性がありますので、再度値を確認してください。

3. パラメータについて

MT4track_Indicatorのパラメータ

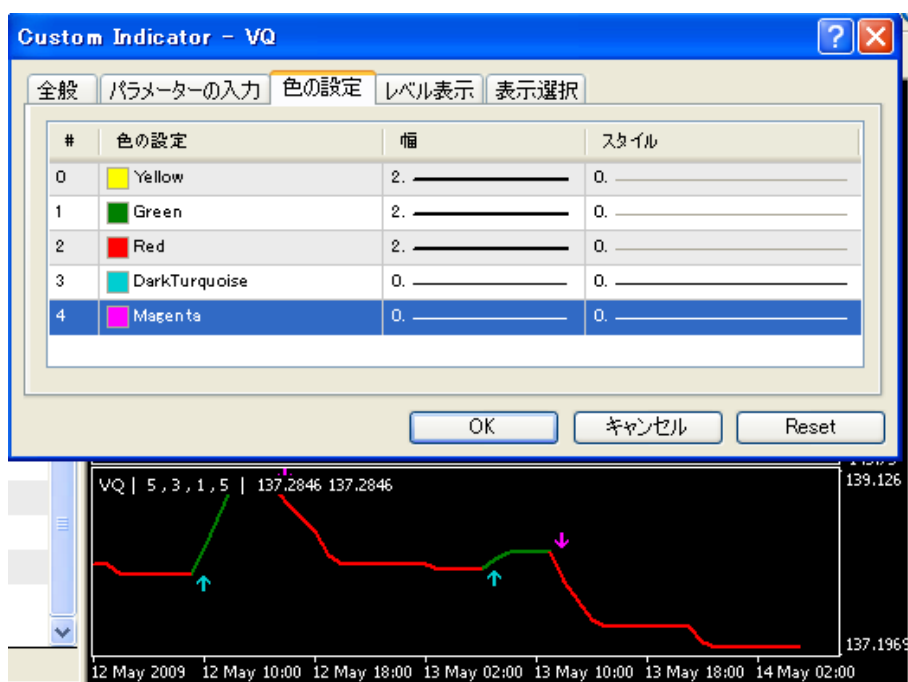
基本設定	
Lots	追跡先へ受け渡すロット数を設定します。
ID	<p>MT4track_Indicator を複数稼働させる場合に、それぞれの売買を識別する為の番号を指定します。</p> <p>追跡元と、追跡先で同じ ID を設定する必要があります。</p> <p>通常の MT4track と同時に稼働する場合も、ID が重複しないように設定してください。</p>
IndicatorName	<p>インジケータの名称を設定します。</p> <p>「〇〇〇.ex4」というファイル名称のインジケータの場合は〇〇〇の部分を設定します。</p>
Reverse	ドテン売買のインジケータの場合は「true」を設定してください。
CheckBar	<p>過去の売買状況をチェックする足の本数を指定します。</p> <p>初期設定「1000」のままとしてください。</p>
IndiCheckMode	<p>シグナルが表示された時点で確定されるインジケータの場合は「0」を設定してください。シグナルが表示された時点で売買されます。</p> <p>シグナルが点いたり消えたりするインジケータの場合には「1」を設定してください。シグナルが表示された次の足で売買されます。</p> <p>設定を誤ると誤動作が発生します。十分に注意して設定してください。</p>

シグナルバッファ設定 (補足あり)	
BuyBufferNo	買いシグナルのバッファ値を設定します。
SellBufferNo	売りシグナルのバッファ値を設定します。
BuyCloseBufferNo	<p>買いの決済シグナルのバッファ値を設定します。 ドテンの場合は設定する必要はありません。</p> <p>決済シグナルのバッファ値が一つだけの場合は、BuyCloseBufferNo と SellCloseBufferNo に同じ値を設定してください。</p>
SellCloseBufferNo	<p>売りの決済シグナルのバッファ値を設定します。 ドテンの場合は設定する必要はありません。</p>
インジケータパラメータ設定 (補足あり)	
ParaCount	<p>変更するパラメータの個数を設定します。 パラメータを変更する必要がある場合には、「0」を設定してください。</p>
Para1～ Para30	<p>インジケータのパラメータを設定します。 ParaCount に設定した値の番号まで、すべて指定する必要がありますので、ご注意ください。</p> <p>また、すべて数値形式での指定となりますので True または False を設定するパラメータは True は 1 を設定、False は 0 を設定してください。 色を指定するパラメータについては、すべて「0」を設定してください。</p>

その他設定	
IndiThreshold1 IndiThreshold2 SPSetting IndiThreshold3	一部の特殊なインジケータに対応する為の設定です。 初期値のままご利用ください。

シグナルバッファ設定について

インジケータのパラメータを表示して、色の設定タブを表示します。
シグナルの色と一致する番号をそれぞれのバッファ値に設定して下さい。
下の画像の例では、BuyBufferNo が 3、SellBufferNo が 4 となります。



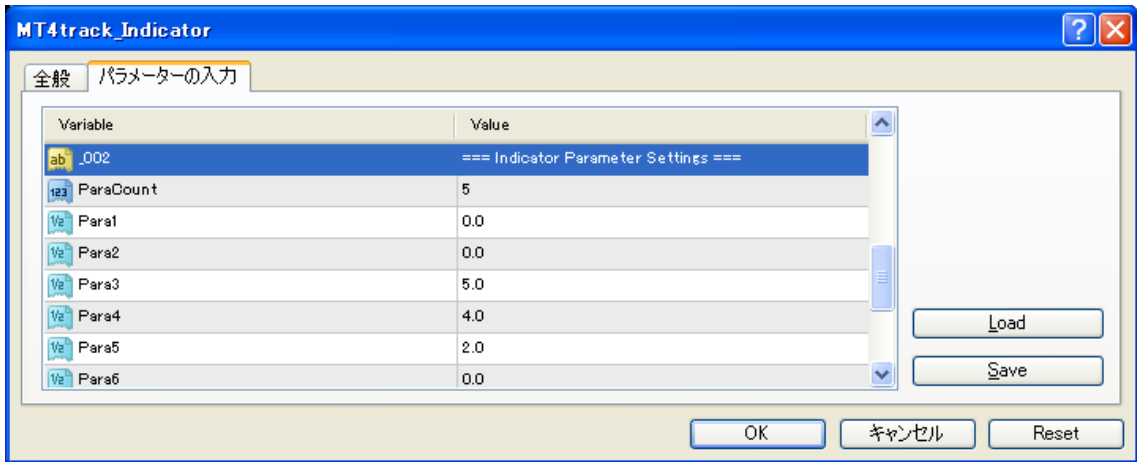
下の画像の例では、BuyBufferNo が 2、SellBufferNo が 0、決済シグナルは一つのみとなりますので、BuyCloseBufferNo と SellCloseBufferNo が 1 となります。



インジケータパラメータ設定について



例えば上記画像のようなパラメータ設定が可能なインジケータがあり、「Method」を 4 に、Smoothing を 2 に設定して、他のパラメータは初期値で追跡しようとする場合、次のように設定します。



ParaCount = 5	変更したいパラメータが 4 番目と 5 番目となるので、5 番目まで設定する必要があります。その為 5 を設定します。
Para1 = 0	Crash に相当します。初期値は false の為 0 を設定。
Para2 = 0	TimeFrame に相当します。初期値 0 を設定。
Para3 = 5	Length に相当します。初期値 5 を設定。
Para4 = 4	Method に相当します。4 に変更したいので 4 を設定します。
Para5 = 2	Smoothing に相当します。2 に変更したいので 2 を設定します。
Para6 以降	設定する必要はありません。

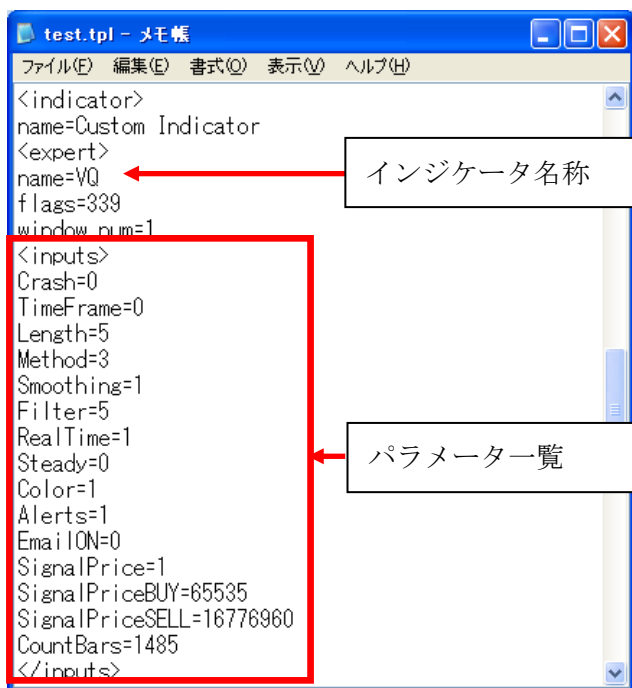
・数値形式に変換されたパラメーター一覧を確認する

MT4track_Indicator の Para1～Para30 に設定する値はすべて数値形式で設定しますが、インジケータによっては数値形式以外で設定するパラメータも含まれます。その場合は、下記の要領で数値形式に変換されたパラメーター一覧を確認できます。

①インジケータのパラメータを変更して、チャートに表示し、定型チャートを保存します。



②保存したテンプレート(〇〇〇.tpl ファイル)をメモ帳で開くと、<inputs>と</inputs>の間にパラメータの一覧が表示されますので、それを確認しつつ MT4track_Indicator のパラメータ設定部分に設定して頂くと簡単に設定できます。



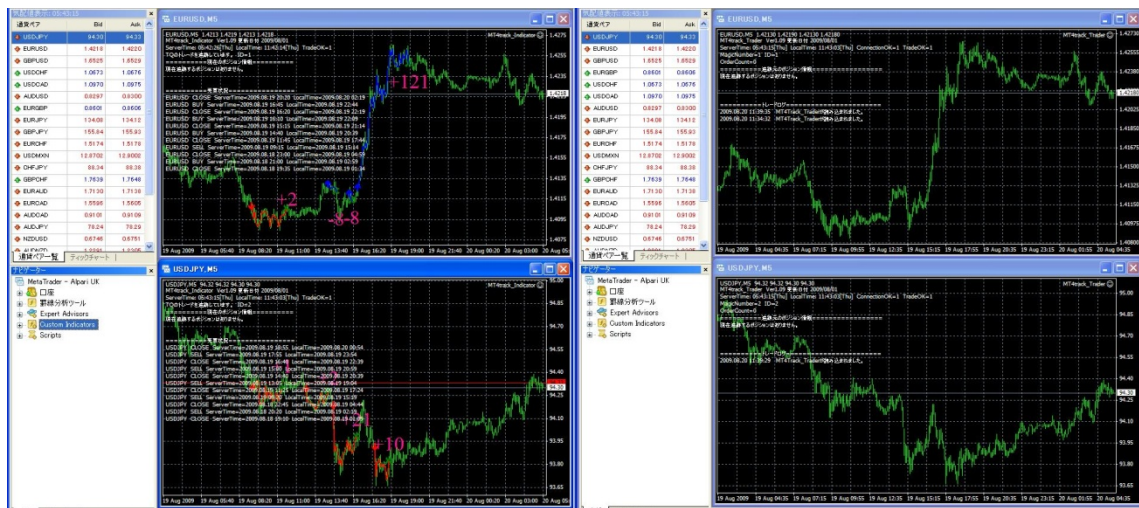
4. 設定例

TQチャートの設定例

例として TQ チャートについて、設定方法をご説明致します。下記手順はインジケータのパラメータ初期値での設定方法となります。インジケータのパラメータを変更してチャートに表示されている場合には、変更したパラメータを指定する必要がありますので「[インジケータパラメータ設定について](#)」をご確認頂き Para1~Para30 に値を設定してください。

例として EURUSD と USDJPY で同時に稼働する場合の設定方法をご説明します。

下図が設定後の状態となります。(左が追跡元、右が追跡先)



追跡元では MT4track_Indicator をセットします。

今回の例は EURUSD と USDJPY の 2 通貨を同時に売買する為、2 つの通貨ペアのチャートに MT4track_Indicator をそれぞれセットします。

1. EURUSD と USDJPY の 5 分足チャートを表示
2. EURUSD チャートに MT4track_Indicator をセットし、パラメータを下記の TQ チャート用パラメータで設定し、ID を 1 に設定
3. 同 EURUSD チャートにシグナルの確認の為に、TQ インジケータをセット
4. USDJPY チャートに MT4track_Indicator をセットし、パラメータを下記の TQ チャート用パラメータで設定し、ID を 2 に設定
5. 同 USDJPY チャートにシグナルの確認の為に、TQ インジケータをセット

TQ チャート用パラメータ

IndicatorName = TQ (TQ が体験版の場合は名称が異なりますのでご注意ください。)

IndiCheckMode = 0 BuyBufferNo = 0 SellBufferNo = 1 BuyCloseBufferNo = 2

SellCloseBufferNo = 2

次に追跡先に MT4track_Trader をセットします。

EURUSD と USDJPY のチャートを表示し、追跡元の MT4track_Indicator に対応する MT4track_Trader をそれぞれセットします。

1. 追跡先 MT4 に EURUSD と USDJPY の 5 分足チャートを表示
2. EURUSD チャートに MT4track_Trader をセットし、ID を 1、Magic を 1 に設定
3. USDJPY チャートに MT4track_Trader をセットし、ID を 2、Magic を 2 に設定

以上で設定完了となります。

追跡元のチャート左上の売買状況に過去の売買状況が表示されれば正しく設定されています。もし表示されていない場合はパラメータの設定を再度確認してください。

```
=====売買状況=====
USDJPY CLOSE ServerTime=2010.01.29 15:40 LocalTime=2010.01.29 23:39
USDJPY BUY ServerTime=2010.01.29 14:30 LocalTime=2010.01.29 22:29
USDJPY CLOSE ServerTime=2010.01.28 18:40 LocalTime=2010.01.29 02:39
USDJPY BUY ServerTime=2010.01.28 18:35 LocalTime=2010.01.29 02:34
USDJPY CLOSE ServerTime=2010.01.28 16:00 LocalTime=2010.01.28 23:59
USDJPY BUY ServerTime=2010.01.28 15:55 LocalTime=2010.01.28 23:54
USDJPY CLOSE ServerTime=2010.01.28 12:30 LocalTime=2010.01.28 20:29
USDJPY BUY ServerTime=2010.01.28 12:25 LocalTime=2010.01.28 20:24
USDJPY CLOSE ServerTime=2010.01.27 20:10 LocalTime=2010.01.28 04:09
USDJPY BUY ServerTime=2010.01.27 19:00 LocalTime=2010.01.28 02:59
USDJPY CLOSE ServerTime=2010.01.27 17:55 LocalTime=2010.01.28 01:54
```

また、更に他の通貨ペアについても売買を行う場合には MT4track_Indicator の ID、MT4track_Trader の ID、Magic を既に設定した値と重複しない値に設定してください。

例えば追加で GBPJPY の売買も行いたい場合には

MT4track_Indicator の ID は 3

MT4track_Trader の ID と Magic は 3

として GBPJPY のチャートにそれぞれセットします。

この ID については通常版の MT4track と共通で使用しますので、MT4track を使用している場合には MT4track の ID と重複しない値を設定してください。

5. FAQ (MT4track_Indicator編)

Q：追跡元では売買が行われますか？

A：MT4track_Indicator では、追跡元がインジケータとなりますので、追跡元では売買を行いません。ですので、一つの MetaTrader4 上で、追跡元と追跡先を稼働することも可能です。

Q：インジケータのパラメータを設定するのが面倒です。

A：設定方法については、改善できないか検討しております。もし、ソースがあるインジケータの場合には、ソースの初期パラメータ自体を変更して頂ければ、パラメータ変更の必要は無くなります。

Q：MT4track_Indicator をセットしても、シグナルがチャートに表示されません。

A：直接インジケータの値を取得しておりますので、インジケータのシグナルは表示します。シグナルを表示したい場合には同じチャート上にインジケータもセットしてください。

Q：追跡先でエントリーと決済が繰り返されてしまいます。

A：原因① 追跡元で複数の MT4track_Indicator を稼働していて、すべての MT4track_Indicator の「ID」を同じ値に設定している場合に発生します。
「ID」を他の MT4track_Indicator の値と重複しない値に変更してください。
原因② 追跡先で複数の MT4track_Trader を稼働していて、すべての MT4track_Trader の「Magic」が同じ値に設定されている場合に発生します。「Magic」を他の MT4track_Trader の値と重複しない値に変更してください。

Q：シグナルを確認する為に、MT4track_Indicator をセットしたチャートにインジケータをセットしたが、インジケータのシグナルが発生しても、MT4track_Indicator がシグナルを検知しない。または、インジケータのシグナルとは異なる場所でシグナルが検知される。

A：原因① IndiCheckMode が「1」に設定されている場合は、次の足へ移った時点でシグナルが検知される為、検知されるタイミングにずれが発生します。
原因② チャートにセットしたインジケータのパラメータを初期値から変更している場合には、MT4track_Indicator でも同様にパラメータを指定してください。

Q：パラメータをすべて設定しましたが売買されません。

A：MT4track_Indicator をセットしたチャートの売買状況の部分になにも表示されない場合にはパラメータ設定に問題があります。インジケータ名称や、バッファの値を再度確認してください。

Q：インジケータのシグナルとは異なる所で売買されます。

A：インジケータのパラメータを変更してチャートに表示している場合には、MT4track_Indicator でも Para1～Para30 にて同様にパラメータを指定してください。

Q：MT4track_Indicator をセットしている MT4 のターミナルの Experts タブに「Cannot open file ～」と表示されます。



A：インジケータ名称の指定が間違っていますので、正しいインジケータの名前をパラメータ「IndicatorName」に指定してください。

Q：MT4track_Indicator をチャートにセットしましたが、チャート左上にバージョン情報やポジション情報等の情報が表示されません。

A：チャートにセットした後、価格の変動があると MT4track の動作が開始されますが、土日の FX 市場が閉じている間にセットした場合、価格の変動がない為 MT4track は動作しません。月曜に市場が開いて価格が配信され始めると MT4track が動作し、情報が表示されます。

6. 最後に

今後の開発の参考にさせていただきますので、ご意見、ご感想、何か気付かれた点等ございましたら、気軽に mt4track@fxspseries.com までご連絡ください。よろしくお願い致します。また、こんな商品が欲しい等のご要望も受け付けております。